



本日の卓話

パストガバナー 関口 博正様 (杉戸 RC)

《職業奉仕について》

になろう



2013 年の規定審議会で R1 テーマを毎年「超我の奉仕」にしようという提案がありました。しかし否決されました。ロータリーの友 9 月号「友愛の広場」に桑名西 RC 鶴田正道氏投稿文が掲載されています。『今年度の R1 テーマは「Be a gift the world」はとても素晴らしい言葉で日本人でもよくわかる英文です。いつも R1 テーマは命令形が多いのですが、今回も「貴方達ロータリアンはすべからず世界のギフトにならなさい」とはっきりとした行動を促すものです。私たちに「愛と知恵を持って世界中の人のために全身全霊を込めて尽くしなさい」と云っているのです。同じ贈り物でも「ギフト」と「プレゼント」では内容は全く違います。この R1 テーマを日本では「心かモノか」「ギフトかプレゼントか」について、ロータリアンの間で健全な討論がなされることを期待していますと結んでいます。』

2002-03 年のビチャイ R1 会長もこう云っております。「ロータリーにおける最善の親睦、奉仕は常に愛の真心から出るものだという事です。かつてマザー・テレサもこう云いました。「どれだけ沢山の物を与えるかではなく、大事なものはどれだけ満ち溢れる慈愛を込めて与えるかです。」私はガバナーの時、ロータリークラブを漢字に当てはめてみました。「老多利倶楽部」これは老人会になってしまいます。「労他利倶楽部」といたしました。一人一人が他の人の立場に立つてものを考え、他の人の為に労力を惜しみなく注ぐ(奉仕・利他)人々が共に楽しむ(親睦・利己)のために集まった団体という意味になると思います。これは本年度 R1 テーマ「世界のプレゼントになろう」と一致していると思います。

職業には 3 つの機能があると云われています。1 つは衣食の糧を得るため、つまり生活のため。2 つは職業によって社会的役割を分担していること。3 つは職業自己実現活動であること。即ち自分の職業に生甲斐を感じ、自分自身を創造し実現しようとする事。そして、自分の能力を生かし発揮したいということになります。私は東京から 1 時間ほどのところにあるご

く小さな造り酒屋の長男として生まれました。酒屋は私で 7 代目になります。私が稼業を継いだことは、この中の 1 つに当てはまると思います。つまり、自分の仕事は神から受け継がれた天職であるということです。また、日本人がロータリーの職業奉仕に惹きつけられるのは、昔から日本人が身につけている職業観によるところが大きいと言われていています。江戸時代初期の僧侶、仮名草子作家の鈴木正三(1579-1655)は、人にはそれぞれに与えられた職分に応じて勤勉に働くことを通じて心を磨き、その勤勉の中にこそ生と死を超越した真実の答えが存在するという人間の基本的な生き方を説いています。「事業を通じて自己を磨き、職業を通じて世の中に役立つ」という日本人の職業観の原点がここにあると思われます。これは近江商人の家訓「買い手よし、売り手よし、世間よし」の三方よしの経営にも繋がっていくものであると思います。

私は酒屋ですから「酒」という商品売って対価をもらい、その得意先は私共の「酒」をお客様に売って利益を出し、買ったお客様も「美味しい」と喜んでくれるのです。まさに三方よしです。これをロータリー風に云うと「満足」という商品売って、「感謝」という対価を受け取るのです。「真実」という商品売って「信用」という対価を受け取ります。相手の身になって商売をすることが、やがては世間から高い信用を得、永く事業が続けられるのです。

元 R1 理事の菅生浩三パストガバナーは「人間というものはニーズの塊です。心のニーズもあれば、物質的なニーズもあります。ニーズが無くなったら人間は存在しなくなるのです。よってニーズは人間の基本で、根源である。それを満たすのが職業ということです。職業という他人のニーズを満たす活動でありますから、他人のために尽くすことになるのです。サービスの理念の第一実行は職業活動である。職業ということは、そういう大切な意味を持つということに自覚する。なるべくレベルを高く設定する。自分がやる場合に具体的に実行していく。これが職業奉仕です。これがロータリーの原点です。」と述べられております。ご清聴ありがとうございました。



パストガバナー 関口 博正様(右)
卓話をありがとうございます。

